

「高・清フレンドリー古道」領域

ミステリアス・ランドマーク

T1～T6 K1～K6

は

どこもみんな不思議と謎ダラケ

中でも、

とにかくにも面白い所

行って楽しく・おもしろく

“make an original stage”
“create your own stage”

本域史跡等名所の多様な形態 [多彩な魅力] 一覧

2頁

特撮（静止画、ドローン撮影動画）最適推奨スポット（穴場）

Ⓐ	月山の「天空石橋」（大雪城帯域）	3～5頁
Ⓑ	「清川 御所王子社」	6頁
好奇心・冒険心旺盛な方へのプレゼント的推奨スポット！（裏行場的）		
Ⓒ	清川行人小屋域湖沼群	7頁
Ⓓ	沢屋向け「烏川 三滝」	8頁
Ⓔ	「元高清水・九十六丁」周辺草付き界隈	9～10頁
Ⓕ	三等三角点の位置	11頁 (広範囲)
Ⓖ	三像三竦み	12頁
Ⓗ	清川行人小屋のお庭に咲くミネザクラ	13頁

「高・清フレンドリー古道」域における 史跡等名所の多様な形態【多彩な魅力】一覧

域内史跡について大別すると下表のとおりである。とりわけ石造文化財に着目するならば、これらが里や麓、あるいは平場に所在するのであれば、特段取り立てて言及すべきものではない。しかしながら、本件において注目すべき意義は、これらの史跡が人里を遠く離れた高標高の山中、しかも豪雪に閉ざされる限られた区域に、凝縮するように点在し、かつ適度な間隔を保ちつつ散在しているという特異性にある。人々が容易には近付き難いそのような山深き地に、金貨を投じて造られた重量物を、寄進奉納のためとはいえ多大な労力と難儀を以って運搬し、安置した先人・古人の嘗みにただ敬虔に首を垂れる他はない。

さらに加えて、周囲の自然の織り成す造形美と相まって、その場には言い知れぬ神秘的な魅力が立ち上がり、冒険心・好奇心を強く喚起せずにはおかしい。

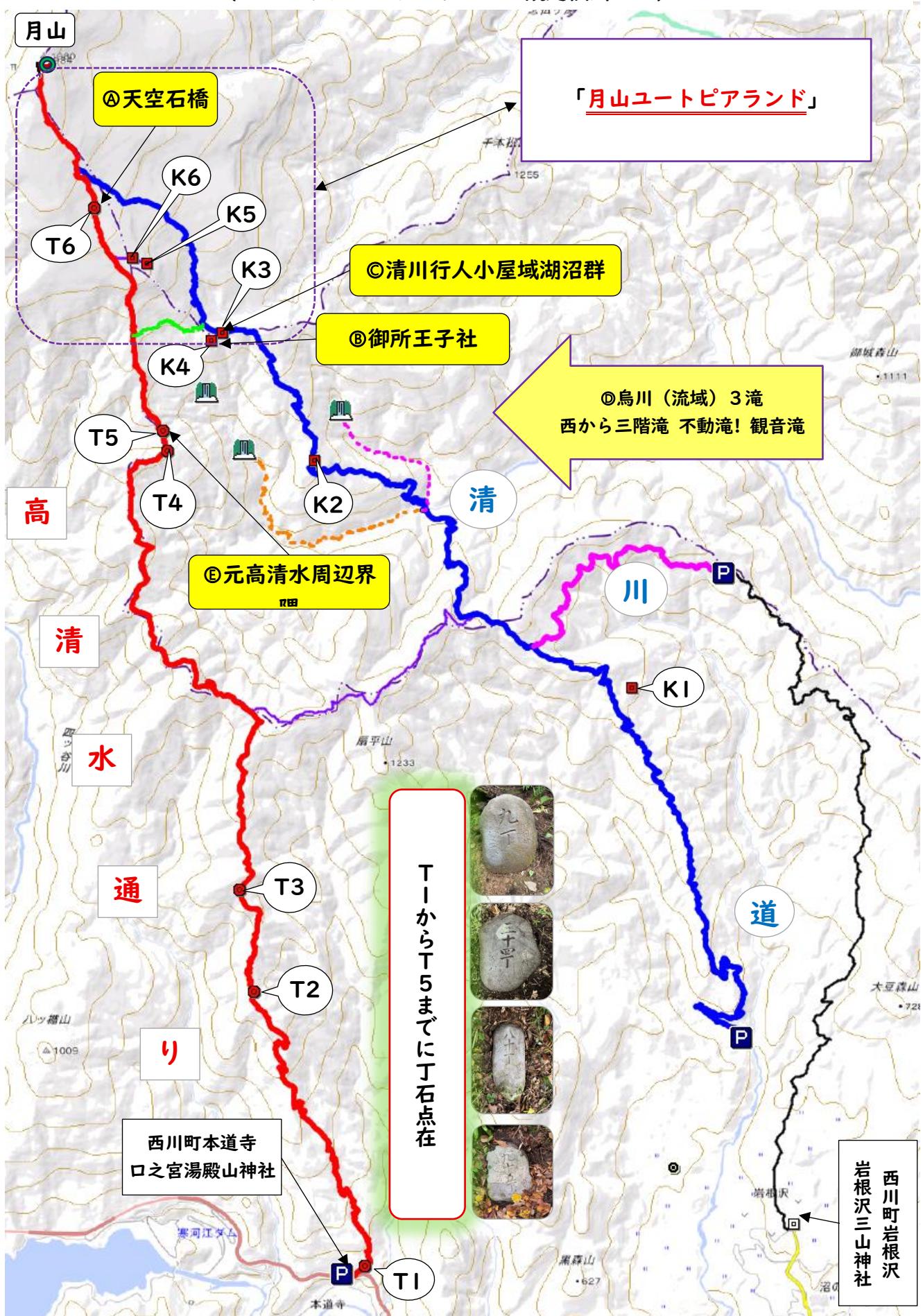
まさに、そこには「天地人（天人地）」三位一体が響き合う交響的精華というべき情景が湧き立つものを感得するであろう。

さあ、みなさん、こんな想像が必ずや体感できる本エリアに行って見よう！

項目	備 考		
寄進奉納	石像（姥、祖母神、弘法大師、お地蔵） 墓石（大半は江戸期、多くに女性戒名） 供養碑・供養塔（南無三十三觀世音菩薩供養、不動明王梵字） 追分碑（月山・湯殿山） 台座・銅板（寄進奉納の神事斎行） 石の船（割り抜いた水受け） 丁石（自然石）		
	神社	木造建築物	把松稻荷
		石造立物	御所王子社（鳥居+祠）
滝	(烏川域三滝) 観音滝、不動滝、三階滝		
湖沼	清川源流湖、幻の行者池、観音滝源頭湖		
三角点	基準点名	標 高	点名由来（推察）
	高清水	1340.2	古道「高清水通り」道の直近
	十文字	1816.8	「高清水通り」と「横道(今は通行不可)」との交差付近
	清川森	1398.3	立谷沢川源流部「清川」域内
	行人清水	1156.9	年中水量豊富な「台所屋敷」水場の近く

「高・清フレンドリー古道」域内 面白き史跡

(ミステリアス・ランドマーク設定個所+ α)



Ⓐ 月山の天空石橋（大雪城帯域）／月山ビールとマッチのドローン特撮スポット

月山山頂から約2.5km、標高約1,733m地点
ここは「月山ビール」の命『水』の古里
400年ロマンの真実の扉を開くのはあなた様！
誰が、いつ、何の目的で造立したのか、今以って不明
現地に行き、その謎解き（余白埋め）の主役た
れ！

大きさ
長さ約 7.5m
幅約 1.2m
高さ約 1.2m



ドローン撮影は
2025(R7)/8/23(+)



月山ビール



月山自然水

ここが月山ビールの命「水」の古里（生みの水源）
とにもかくにもここに月山ビールを持ち込んで楽しもう！

2025(R4)年9月10日（土）14時30分頃T-FMO（宮林良幸）が発見

2023(R5)/08/01(火)、阿部剛士さんと大沼が立ち寄り
(前日は清川行人小屋泊)



2025(R7)/08/02(土)、菅野大志西川町長の視察登山同行時
(当日は清川行人小屋泊)



大雪城雪渓下の「天空石橋」
2025(R7)0802(土)14:20

年によつて、積雪、残雪の状況は変わるのは当然としても、
現在でも少しあは万年雪となつて（残つて）いるのではなかいか？!
同じ8月の1日差でこれだけ違う。

今やGoogle社から公認され、世界に知れ渡った「月山の天空石橋」

Google Earth 撮影は2015年10月21日 「月山の天空石橋」というマーカー（スポットピン）が入っている
どなたが入れたのかは当方では関知・把握していない



〒990-0733 山形県西村郡西川町月山沢
990-0733 月山の天空石橋
G2PJ+WR 西川町、山形県
news.ntv.co.jp クリックすると下の動画にリンク

月山9合目付近で未知の石橋発見！発見者は70代トリオ！！
謎に包まれた石橋の正体とは—

YBC

2023年11月7日 15:47



今や「月山の天空石橋」は、個人的な趣味や嗜好に基づく呼び名ではない。
これは公に認定されたものであり、広く社会に認識されるに至った。
もちろん、google Mapにも記載され、矢印（右上）で示されている。

⑧ 「清川 御所王子社」／ドローン特撮スポット

清川行人小屋から西南約 100m の小高い丘(標高 1,380m)に神社（寸詰りの鳥居と石祠）がある

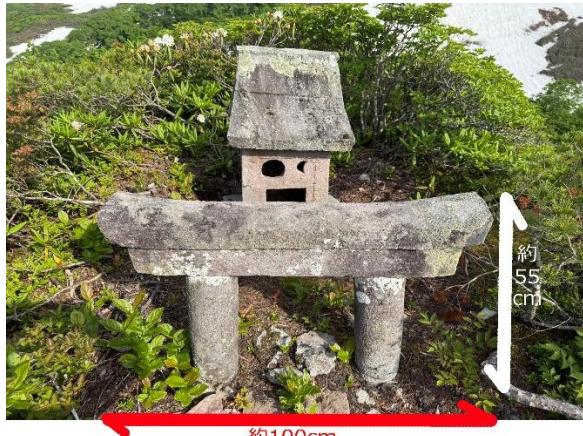
360 度の大展望－奥羽山脈－蔵王・吾妻・飯豊・朝日の連峰が繋がる

慶長十六（1611）年に永松鉱山を発見した荒木源内の分家荒木源兵衛が寄進奉納した神社、これは嘉永五（1852 年）建立、再建か？

別称「五所皇子稻荷神社」ともいい、名称は皇居・天皇家との繋がりを暗示する。



祠の彫り物の意味合いは？



みなさん、不思議な場所でこんな遊びを楽しみませんか！



当社から北方、月山「手盡坂バンド」



巫女さん衣装で月山と湯殿山の遙拝と舞う構図
の静止画・ドローン撮影動画が欲しい！
モデルはあなた様です！



東から南を望む



西から南を望む

この小高い神社から

◎ 「清川行人小屋」域湖沼群



「よこみち」から見える。
北側に大きな岩が守り神のように位置している。行く度に観察しているが、夏季間は、水量はほぼ一定のように見える。ここから水が染み出で、清川源流部に注いでいる。

清川源流湖



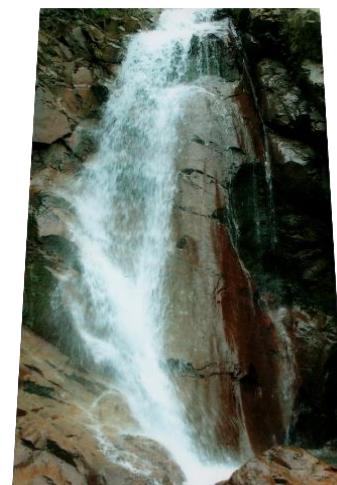
幻の行人池

御所王子社への上り口、右側（西方向）30m 入った所に「幻の行人池」がある。周辺からは見えない、現場に行って初めて池があることが分かる。御所王子社の小高い丘からも見えない。時期によっては水が枯れることもあるという。碎石したようなほぼ大きさが同じの石原である。

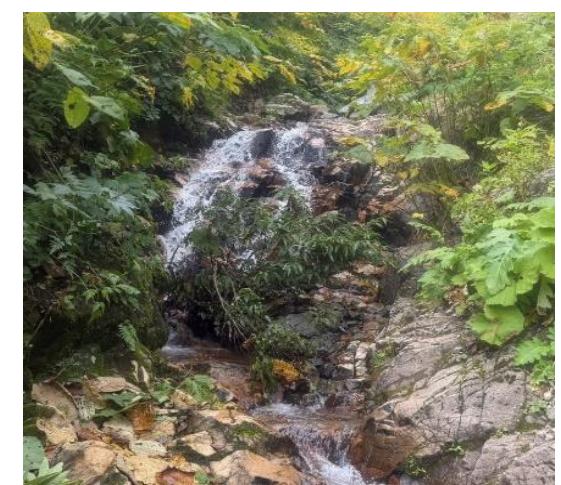
④ 沢登り（沢水浴び、祓い清め）オタク向けの推奨スポット「烏川 三滝」



(烏川)三階滝約3.2km



(烏川)不動滝約2.5km



(烏川)観音滝約2.1km

現下、金の値段が高騰している、砂金の有りや否や
この三滝界隈は江戸期、山師が鉱山開発を
目ろんで立入った山域

距離起点は烏川渡渉点

④ 「元高清水・九十六丁」（昔小屋を掛けた）

2022(R4)年9月10日(土)15時09分
T-FMO(大沼香)が濃い藪・地中から発見
200年振りの最終丁「九十六丁」石と墓石2体

一つ手前の九十五丁



古絵図にみる掛け小屋



江戸期の夏季間、小屋を掛け2人が住み込んだ

Google Earthに見る「元高清水」背後地
古道ルートの発見と、整備後ルート

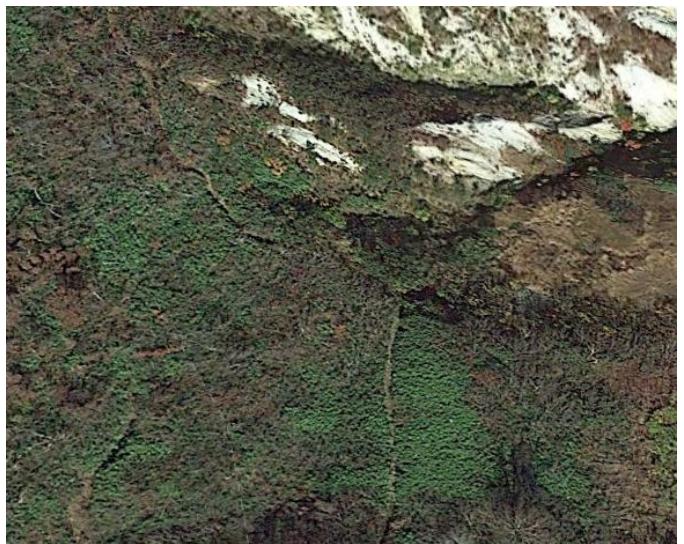
私達の地道な取組みを、しっかりと宇宙の眼は捉えている。登山者の安全な歩行に少しでも貢献していることは嬉しく思う。

2022(R4)年11月12日(土)、T-FMO(大沼香)が発見
同年11月26日(土)、宮林良幸と大沼は刈払いを延長
この直後に被撮影

2023 (R5)年6月26日(月)、阿部剛士と大沼は総仕上げ
2022/11/28撮影／古道復元道型明瞭



2015/10/21撮影／古道道型不明



好奇心オタク向け（元高清水・九十六丁）周辺草付き界隈



北を背に南方を望む



小尾根を人工開削跡



- この所は、骨太尾根筋一直線道の「高清水通り」において、尾根幅が一番狭まる（細くなる）帶域であり、東西両側にぐんと落ちるまでの幅が約35mである。
- 東側には草付き（池塘点在）が広がり、鉱泉水が溜まる池塘が点在している。
- 一帯は、江戸期、鉱山開発（鉱物）を目ろんで山師が跋扈したエリアであろう。



ゲル状溜り(鉱泉)



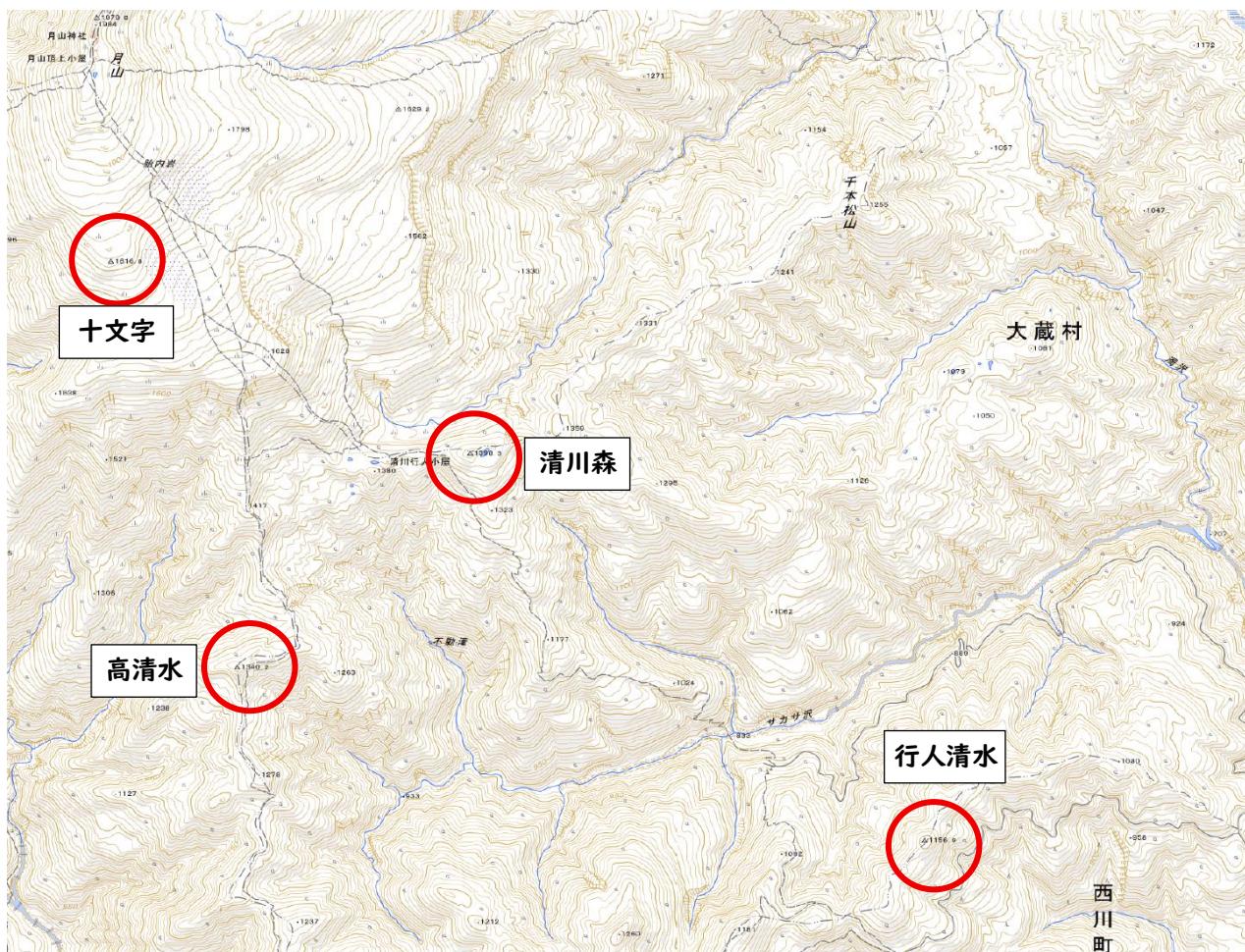
金氣水溜り(鉱泉)



⑤ 冒険心オタク向けの三等三角点の在り処

「高・清フレンドリー古道」沿いの三等三角点位置

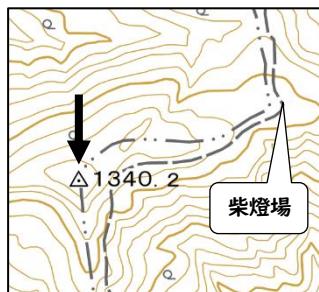
濃い藪漕ぎを強いられる個所もあり、道が整備されている訳ではない！



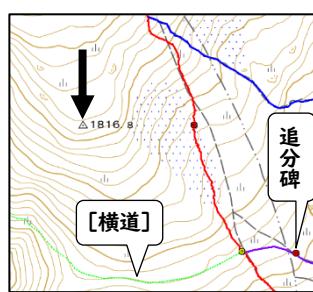
基準点名

(きちんと根拠がある！？ ⇒ 2 頁)

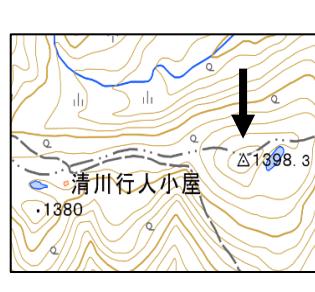
高清水



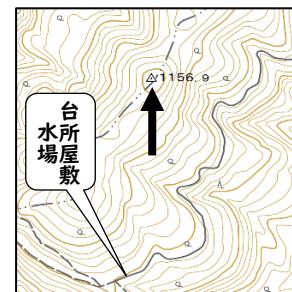
十文字



清川森



行人清水



堀米晴夫さんから提供された現地写真

情報提供を賜った山形市内在住の堀米晴夫さんは、三角点探査・研究の山形県内第一人者である。東北の一等三角点の全部を平均 3 回以上は踏査され、山形県内の二等三角点も全部踏査された方である。

◎ 「地蔵菩薩像と不動明王像と弘法大師像」の三竦み／調和的対比綱図

三重県伊賀市の八重樫雅行氏Facebookより
拝借した真言系掛け軸仏画



この三竦み一体構図の宗教上意味合いは如何に？

仏陀入滅から「56億7千万年」後に「弥勒菩薩」が下生されるが、この間は「地蔵菩薩」が衆生を救済するとされる、ここに「仏陀＝地蔵菩薩＝弥勒菩薩」の線的繋がりが見出され、一方で「仏陀←不動明王←大日如来＝弘法大師→弥勒菩薩」という面的な繋がりが観想され、三世（過去と現在と未来）の大切さを説く、さらには、「一即多・多即一」華厳世界の教えの象徴化であろうと推察する。

「高・清フレンドリー古道」域内

左は一つの統合型（真言系）に対し、こちらは三個所の分散型（天台系）



右の烏川不動尊は布施
昭太郎氏より提供

地蔵菩薩像
「來名戸神」

弘法大師像
「清川行人小屋前」

右／不動明王梵字碑
左／烏川不動尊像

この4ポイント三竦みを押めばこそここに加護と利益

④清川行人小屋のお庭に咲くミネザクラ



桜は、https://akikoma.jp/alpine_plants/239/より転載

例年、五月下旬から六月初めに満開になると
いう
清川行人小屋南面のミネザクラ（峰桜）
どんな花が咲くのだべつか?
(小屋の東側にむく。)